

## 家庭科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な指導方法

### ～パフォーマンス課題を活用した効果的な指導方法～

#### 1 はじめに

新学習指導要領では、新しい保育所指針への対応や職業人としての意識をより一層高めることができるよう「子どもの発達と保育」と「子ども文化」の内容を整理統合し、再編成された。これらの科目においては、家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指している。

このことから本研究では、科目「子ども文化」において、絵本制作、読み聞かせへの取組を通して、パフォーマンス課題を段階的に取り入れ、主体的に学びに向かう力の育成を目指す。そして、生徒自身が学習成果を評価できるよう評価基準を明確化し、主体的・対話的な学びができるよう指導方法を考察する。

#### 2 単元の概要

- (1) 科目名 子ども文化
- (2) 実施時期 1学期～2学期
- (3) 対象 子ども文化選択者3学年（男子3名 女子12名）
- (4) 使用教材 子ども文化（実教出版），学習プリント，タブレット端末，プロジェクター
- (5) 単元名 第1章 子どもの表現活動と保育

#### 3 単元の目標

- (1) 子どもの表現活動の意義と重要性を理解し、子どものさまざまな表現活動を促す技術を身に付けるようにする。 【知識及び技術】
- (2) 子どものさまざまな表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する力を養う。 【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 子どもの表現活動と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

#### 4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
子どもの表現活動の意義と重要性を理解し、子どものさまざまな表現活動を促す技術を身に付けている。	子どものさまざまな表現活動について課題を発見し、その解決方法を検討し、創意工夫し表現している。	子どもの表現活動と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

#### 5 指導と評価の計画(55時間)

1節 造形表現活動	27時間
<b>2節 言語表現活動</b>	<b>23時間</b>
3節 音楽・身体表現活動	4時間
4節 情報手段などを活用した活動	1時間

指導計画

時間	学習内容	評価		評価方法
		観点	記録	
2節 言語表現活動				
【ねらい】子どもの表現活動の意義と重要性について考える。				
1	・子どもの頃に読んだ絵本，好きだった絵本を思い出し，グループで話し合い，まとめる。	態		ワークシート
2	1 言語表現活動の意義と重要性	知	○	・言語表現活動の意義と重要性を理解し，適切に記述している。 定期考査 ワークシート
3	2 絵本の制作			
4	①絵本で伝えたいテーマを考える	思	○	・絵本で伝えたいテーマを子どもの特徴を踏まえて自分なりに考え，分かりやすく表現している。 ワークシート 観察
5	②下書き作成			
6	・下書きが完成したらロイロノート・スクール（株式会社LoiLo，			
7	以下「ロイロノート」と表記）に			
8	提出する。			ロイロノート
9	③清書	思	○	・絵本の内容を伝えるためにどのように工夫すればよいかを考え，分かりやすく表現している。
10				
	④発表・評価	態	○	・アドバイスを受け，試行錯誤しながら，言語表現方法について協働的に学ぼうとしている。 ワークシート
	・発表（聞く人は評価シートに記入する）			
	・発表を聞いてアドバイスをし合う。	態		・発表において，自分の考えを分かりやすく伝えることができている。
	⑤振り返り			
	・自分の発表動画，自己評価と他者評価を踏まえて発表内容の問題点を見だし，改善する。			・自分の発表を振り返り，改善点を見つけ，他人の意見を聞き，自分の考えに取り入れている。 観察
11	⑥発表・評価	思	○	・自分の発表を振り返り，改善点を見つけ，自分なりに改善策を考え，分かりやすく表現している。
	・改善点を中心に発表（聞いている人は評価シートに記入する）			
	⑦振り返り			
	・振り返りシートをまとめる。			

12 3 23	校外実習 ・絵本の読み聞かせ ・手遊び	思	○	・子どもの発達の特徴を理解し、抑揚、速さ、間の取り方、声の大きさについて分かりやすく表現している。
---------------	---------------------------	---	---	---

## 6 評価例

### 【知識・技術】

「おおむね満足できる」 状況 B	「十分満足できる」 状況 A	「努力を要する」 状況 C と判断した生徒への 指導の手だて
・子どもの表現活動の意義と重要性についておおむね理解し、適切に記述している。	・子どもの表現活動の意義と重要性について根拠を踏まえて十分理解し、適切に記述している。	・教科書やプリントを活用して再度確認をさせる。
・絵本の制作に当たり、子どもの特性についておおむね理解し、適切な内容を取り上げている。	・絵本の制作に当たり、子どもの特性について根拠を踏まえて十分理解し、適切な内容を取り上げている。	・教科書やプリント、対象年齢に合った市販の絵本を活用して再度確認をさせる。
・絵本の内容についておおむね理解し、適切に朗読している。	・絵本の内容について根拠を踏まえて理解し、適切に朗読している。	・教科書やプリントを活用して再度確認をさせる。

### 【思考・判断・表現】

「おおむね満足できる」 状況 B	「十分満足できる」 状況 A	「努力を要する」 状況 C と判断した生徒への 指導の手だて
・子どもの発達の特徴を理解し、抑揚、速さ、間の取り方、声の大きさについて分かりやすく表現している。	・子どもの発達の特徴を理解し、抑揚、速さ、間の取り方、声の大きさについて根拠を踏まえて分かりやすく表現している。	・子どもの発達の特徴について教科書やプリントを再度確認させる。
・自分の発表を振り返り、改善点を見つけ、自分なりに改善策を考え、分かりやすく表現している。	・自分の発表を振り返り、改善点を見つけ、自分なりの改善策を考え、今まで学習したことを踏まえて書き出し、工夫している。	・自分の発表を振り返り、読み聞かせに必要な事柄を教科書やプリントを活用して再度確認し、考えさせる。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

「おおむね満足できる」 状況 B	「十分満足できる」 状況 A	「努力を要する」 状況 C と判断した生徒への 指導の手だて
・言語表現方法について協働的に学び合おうとしている。	・言語表現方法について自らの考えを適切に伝えたり、他者の考えを聞いて自分の考えを整理改善し、まとめようとしている。	・自分の意見と他者の意見を整理させ、自分の考えを他者に伝えさせる。

## 7 授業実践の成果と課題

本研究において、パフォーマンス課題として取り上げた (1) 絵本製作 (2) 発表・評価 (3) 校外実習について、それぞれの成果と課題を記載する。

## (1) 絵本制作

### ①ねらい

伝えたいテーマを子どもに分かりやすく伝える技術を身に付けることをねらいとし、「伝える工夫」を、ワークシートやロイロノートを利用して評価した。

### ②成果

子どもが楽しめる絵本にするために構成やイラストを工夫する生徒が多く見られた。立体的にするなどストーリー以外の箇所でも子どもが楽しめるような工夫を取り入れた生徒もいた。また、登場人物を厳選したり、シンプルなストーリーにするなど、子どもの情報処理能力を考慮した上で分かりやすい内容にしようと工夫する生徒がいた。

### ③課題

作成する上で参考にするものが自身の幼い時の記憶であった。記憶を十分に活用することはよいことではあるが、これまでの授業で学んだ知識から根拠をもって作成してほしい所であった。

## (2) 発表・評価

### ①ねらい

作成した絵本を小グループに分かれて発表し、グループのメンバーからのアドバイスを受け、協働的に読み聞かせの完成度を高めることをねらいとし、試行錯誤しながら自分の作品を振り返る過程をワークシートや観察を通して評価した。

### ②成果（写真1）

(ア) 読み聞かせをタブレット端末で録画して見直すことで改善点を見つけた。抑揚や感情のこめ方を反省している生徒が多く見られた。子どもが聞いた時にどう感じるかという目線に立って自分の読み聞かせを振り返ることができていた。

(イ) クラスメイトの発表を見ることで、他者のよかった点を自身の読み聞かせに取り入れたり子どもと接するときの参考にしようとする生徒が多かった。人によって伝えたいテーマが違うため、作品の方向性に違いがあった。聞いてほしい年齢層によって、内容を重視した方がよいのか素材やイラストなど視覚や触覚で楽しむ部分を重視するのかなどの作品の軸を考えることが重要だと気が付くことができていた。

### ③課題

よくない点を自覚した生徒は多かったが、どのように改善するかについて考えを深められていない生徒が多かった。練習の段階で改善点を自覚したものの、校外実習においても上手く改善できなかったとの声も聞かれた。

## 発表と振り返りの様子（写真1）



### (3) 校外実習

#### ①実施した内容

子どもの観察や読み聞かせ実習を行うために、学校近くにある保育園、大型児童センターを訪問して、子どもの遊びの観察、子どもと関わる際の留意点を考えるとともに、子ども理解の方法について学ぶことを目的とした。

#### (ア) 保育園実習（わんぱく保育園）

- ・習熟度を確保するために生徒は間隔をあけて2回保育園実習を体験することとした。
- ・各生徒あたり、一回目の訪問から4週間後にもう一度校外実習に赴き、園児に絵本の読み聞かせをした。
- ・年長クラス2クラスに分かれて実施。生徒は2、3名に分かれて読み聞かせを行った。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策のため、訪問生徒は各グループ5人で3グループに分散して実施した。

#### (イ) 大型児童センター（とだがわこどもランド）

各生徒あたり4回の実習を実施した。前半2回は施設の観察、子どもの様子の観察、親子で遊ぶ様子の観察、声をかけて一緒に遊ぶ活動などを中心に、後半2回は読み聞かせ、手遊び会をした。

実施場所	実施内容	対象	実習回数
わんぱく保育園	読み聞かせ・自由遊び	年長クラス 2クラス	2回
とだがわこどもランド	施設の観察・読み聞かせ	未就園児（親子連れ）	4回

事前準備	各グループ5人で、3グループ
1・7時間目	【保育園実習】 ・読み聞かせ・自由遊び
2・8時間目	【振り返り】 ・各自、前時の保育園実習を振り返りグループ内で発表する。 ・次回に向けて、改善点やアイデアを出し合い練習する。
3・9時間目	【児童センター実習】 ・施設の観察・子どもの様子の観察・親子との触れ合い
4・10時間目	【振り返り】 ・各自前時の保育園実習を振り返りグループ内で発表する。 ・次回に向けて、改善点やアイデアを出し合い練習する。
5・11時間目	【児童センター実習】 ・読み聞かせ会・手遊び会・親子との触れ合い
6・12時間目	【振り返り】 ・各自前時の保育園実習を振り返りグループ内で発表する。 ・絵本作り・読み聞かせ・校外実習のまとめ

## ②成果

家族以外の子どもと接する機会がほとんどない生徒が多く、初対面の子どもとの時間をどう過ごすかに戸惑い、積極的に動けない生徒が多く見られたが、子どもと一緒に過ごす時間を重ねることで、年齢や個性による好みの違いに気づき接し方を意識するなどの工夫をし、子どもへの理解を深めていた。(写真2)

## ③課題

### (ア) 日程に関する課題

- ・2単位に対して、1単位分を実習に当てる必要があり、振り返り、改善、練習に使える時間が不足していた。年間を通して実習計画を入れていくとよい。
- ・校外実習が続くことで、生徒たちの緊張感がなくなってきた。
- ・実習時間を確保するために昼放課中に更衣・移動し、実習先で5時限目の授業開始とした。保育園ではその時間は年少児の午睡にあたり、年長児の2か所のみ分散して実習したが、全員で実習できるよう、時間割を作成する時点から保育園側との調整ができるとよい。

### (イ) 準備に関する課題

- ・とだがわこどもランドにおいては、イベントの周知が不足していた。  
→施設の発行するイベント予定表に記載してもらおうと効果的だと感じた。
- ・生徒自身の自覚（事前準備・練習時間をもつこと）。  
→練習シートを配付したが、自己満足で終わってしまっていた。  
→実際に子どもと触れ合ったことで、直感的にさまざまなことを感じ取っていたが、事前に学んだことと結び付けられた生徒は少なかった。
- ・保育園側の希望に沿った時期、内容で実習できるよう綿密な計画が必要。  
→今回はこちら側で読み聞かせを希望し、保育園側の希望は取り入れていない。

## 保育園実習の様子（写真2）



## 8 授業実践を終えて

実習の振り返りをする中で、自身の活動のよい点、新たな課題や改善点に気付くことができている。一方で、子どもたちとの触れ合いを通して子どもの遊びについての考えや理解が深まっている様子が見られる。

全体として、子どもの目線に立ってどうすれば嬉しいかを考えて行動する生徒が多かった。もうひと踏ん張りして、子どもの目線に立つことに加えて、これまでの授業内容を生かし、根拠をもって考えてか

ら行動することが望ましい。振り返りの時点では、学んだ内容から活動との接点を見つけて反省として挙げるができていたが、活動の際にも意識できるようにする必要がある。実習中の読み聞かせも生徒が相互に録画し、見返し、振り返れる場面を増やしていきたい。活動の前にどのようなことを意識すべきか生徒同士で話し合わせることで確認させるようにしたい。また、学ぶ時点で具体的な場面を生徒に想像させるなど、改善すべき点は多く残った。

#### ワークシートの記述内容より（抜粋）

保育園
<ul style="list-style-type: none"><li>・絵本が好きな子はずっと集中できていたけど、あまり好きでない子はすぐに飽きてしまっていた。</li><li>・絵本をめくるタイミングを意識して読むことができた。</li><li>・引きつけられるような本の読み聞かせをもっと練習する。</li><li>・子どもと同じ目線に立つことが大切だと思った。</li></ul>
児童センター
<ul style="list-style-type: none"><li>・1，2歳児は本を長く読みすぎると集中力がなくなってしまう。</li><li>・ものすごく小さい子が多くていまいちな反応だったので、もっと興味をもってもらえるような本を選んだり、読み方を工夫しようと思う。</li><li>・動きのある方が子どもたちも一緒にできて楽しそうだった。</li><li>・恥ずかしがらずにもっとしっかり読みたいと思った。</li></ul>

#### 9 まとめ

パフォーマンス課題として絵本製作、発表、校外実習に取り組んだ。2年後の新科目「保育実践」の実施に向けて目途をつけることができた。

修正すべき点として、

- ・子どもをイメージするために保育に関する基礎的理解度を高めることの必要性
- ・施設側が期待する高校生との関わりを踏まえた実習計画

が浮かび上がった。今回は保育系の進路を希望する生徒がほとんどいない講座であったこともあり、子どものイメージは自分の家族以外にもてない生徒が多かった。日常生活においても子どもと接する機会をほとんどもたず、校外実習が始まった当初は「子ども＝知らない人」との時間をどう過ごすかに非常に戸惑っている生徒が多く見られた。「保育実践」は、保育系の進路を希望する生徒のみの履修となり、「保育基礎」を学んだ生徒がより実践的な内容を学習するためにパフォーマンス課題を経て、子どもと関わりつつ学習することにより、子どもの健やかな発達を促すための保育について考え、よりよい保育を創造し課題を解決する力の育成へとつなげることができると考える。